

## 2022年度事業報告 概要

### <奨学生選抜>

2022年7月に2023年夏に出発する奨学生の募集要項をホームページで公開し、全国の約400校の高校に広報用のポスターとともに郵送した。募集についてオンライン説明会などの広報活動を行い、8月中旬より出願を受けつけ、9月から10月にかけて選抜試験を行なった。史上最多であった昨年の129名より減少したが、96名の応募者があった。リサーチ大学を対象とした奨学金がなくなった影響があったと思われる。前年のリベラルアーツ大学限定枠の応募者は92名であった。最終的に10名を今年度の奨学生として選抜し、うち1名は経済的理由から国内大学進学を選択した。

### <広報>

広報テーマ「Grew Bancroft Family」に沿って、広報インターン9名が中心となり活動を行った。また12月以降は女性リーダー育成を支援する新奨学金、捨松スカラシップ募金に向けた活動を開始した。5年ぶり仁基金ウェブサイトのリニューアルを行った。YouTubeやSNSを通して応募者に対する広報活動を行った。基金の特徴（実績・大学との関係・ファミリー感）を告知することで、受験者数は維持できた。

### <募金>

受け取り寄付金合計は7,144前年度万円となり前年度比2,414万円の大幅な増加となった。増加額の77%にあたる1,849万円は次年度設立予定の新奨学金の原資として寄付された。卒業生の寄付参加は目標の35名には及ばないものの前年度の17名から21名に増加し、寄付金額は前年度の約3倍の1,945万円となった。新設予定の女性リーダー育成を目的とした新奨学金のコンセプトが多くの人々の賛同を得たことが寄付金増加につながった。その他、大口支援者に関しては今年度も継続して変わらぬ多大な支援をいただいた。

### <資金運用>

償還を迎えた円債の再投資と米ドルの短期資金を満期2年のドル建て社債に投資したのが主な投資行動であった。期末では、正味財産の54%がドル建ての債券及び短期資金、8%がREIT及びインフラファンド、残りが円債及び円の短期資金となっている。今後4年間の支払い義務のあるドル建て奨学金とほぼ同じ金額をドル建て資産で保有している。資産運用益は外債の利息が投資残額の増加と円安効果により100万円増加し233万円となった。全体の運用益は前年

度の 358 万円から 471 万円に増加した。資産運用益の内訳は約 5 割がドル建て債券、約 3 割が REIT 及びインフラファンド、残りが円債と円及びドルの短期資金となっている。

#### <奨学金給付>

奨学生 21 名に対して 7,297 万円（前年度 22 名に 5,995 万円）の奨学金支出を行った。前年度比大幅増加（1,302 万円増）の主因は一人当たりの奨学金支給額の増加と大幅な円安による。前年度と同じ平均決済為替レートであれば 956 万円少なくなる計算となる。

#### <事務所移転>

国際文化会館との賃貸契約を更新ができなかった為、2023年3月に港区南麻布2丁目に事務所を移転した。